

松禪寺報

石室山 松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒 668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

<http://syozen.com>

<https://www.facebook.com/syozenji>

発行日 平成 26 年 9 月 26 日

第 60 号



▲インド・ガンジス河の夜明け

江月照松風吹く

江月照らし松風吹く

川面を照らす

月の清らかさよ

松の枝を渡る

風の清々しさよ

大自然がもたらす

この静寂で

清らかなひととき

私のこころも

月の如く円く

さわやかな風に

吹かれている

死について の断想

住職となつて17年余りとなりました。この間、檀家さんの葬儀も数々執り行つてきました。最近是一年間で10件前後(兼務寺院の葬儀も含む)の葬儀に携わっています。葬儀では、できる限り今は何のお経をあげているのかといった説明をしながら進めています。まだまだ十分ではないかと思いますが、私に副住職の時には、土葬の葬儀に携わつた経験もありましたが、それも今は火葬になりました。火葬場に向かう葬列も簡素化されましたが、もともと野辺送りは僧侶が先導してお墓に向かいました。だから火葬になつても僧侶が乗つた車が霊柩車の後を走りまゐります。(私の前を走つた方もいらつしゃまいしたが。)しかし、何と言つても近年の葬儀で一番変化したのは、自宅での葬儀が減りつつあり、葬儀業者が経営する会館での葬儀が増えたことです。突然のことですから、自宅をあわてて掃除する必要もなく、弔問の人を迎

えるのも安心です。

暑い、寒いといった気象変化にも万全です。

このように葬儀のスタイルが変化しつつも、故人が乗つた霊柩車を見送る人々の姿は変わりません。自宅での葬儀ですと、霊柩車が村を出るまでの間、道の端で手を合わす人を必ず見かけます。「皆さんが手を合わせて見送ってください。ありがとうございます。」と感じます。葬儀は、諦観せしめること、つまり、「死んだ」ということ、元には戻れないということを明らかにして悟らしめることが、僧侶の役割であります。有縁無縁の人々が合掌して見送ってくださいさるのも、「ああ、もう帰つてこないんだ。」ということ明らかにしてくれる感じがします。



日本では亡くなる人の8割ぐらゐは病院で亡くなつていゝと聞きました。が、家族親族が集まつて臨終に立ち会う姿はどうなつたので

しょうか。法務省などが毎年、中学生を対象に行つてゐる中学生人権作文コンクール(但馬大会で、中学校3年の女子生徒Sさんの作文を目にしました。ガンを患つたおばあちゃんを家族で見守り、見送る作文でした。

「別にガンでもいいんだ。もう死ぬ覚悟もできてゐる。」

「おばあちゃんはガンだつたわ。でもこれからがんばるわ。」

こういふながらも、涙を流すおばあちゃんの姿に、Sさんは「死ぬということは本当にこわいのだろうと、そのとき初めて知つた。」と書いてゐます。それから、何か特別な支援、あるいは声掛けをしようと悩むSさんに、お母さんは

「いつもどうりでいいよ。できない事をやつてあげればいい。何かを私がやつてあげてゐると思つてはだめ。」と教えてゐます。そして、

やがて訪れるおばあちゃんの死。家族や親族が見守り、おばあちゃんを呼ぶ声、そして「私の身近に起きた初めての死だつた。」と書かれてゐました。人が死ぬということはどういうことなのか、遊び、仕事、趣味、友人、大切な家族、そのすべてを捨てていかなければなりません。病を伴つてから、一つまた一つと捨てていくのです。

これら喪失の苦痛とともに、からの痛みや不快感、仕事や家族への心配、そして、なぜ死ななければならぬのか、なぜ私がガンなんだ、といった精神的な苦しみが伴います。Sさんの身に起きた家族の死に、いろいろなことを肌で感じたに違いありません。

人の死に立ち会うことによつて学んだ死生観、けつして忘れることはないと思ひます。いくら医療が発達しても、寿命には限界があります。その終わりも、突然訪れるかもしれません。命は、時間であり、時間は人を待ちません。

「ほろほろと秋のひかり手にうけて…」

秋晴れのもと秋彼岸会を執り行いました

秋彼岸の中日会を9月23日(秋分の日)、松禪寺で執り行いました。例年の通り朝8時30分から当番さんによる食事作りが行われ、秋の恵み、自然の恵みをたくさん詰め込んだ、おいしいお弁当に仕

上がりました。

約25人の皆さんのお参りがあり、午前11時過ぎから本堂で皆さんと一緒に彼岸法要を執り行いました。

また、9月は敬老の日がある月

ですから、米寿を迎えられる檀家さんには本山に申請して、お祝い状と立派な輪袈裟をいただいています。今年是对象となられたお一人のご家族の方がお参りされておられ、皆さんの前でお渡しできました。法要後は、当番さん手作りのお弁当をいただき、実りの秋と、今ある命に感謝しながらその味覚を皆さんと一緒に楽しみました。

妙心寺派管長さまよりの百寿・米寿のお祝いを伝達

今年も妙心寺派花園会本部に申請をして、百寿を迎えられたお二人と、米寿を迎えられた4名の方々に、妙心寺派管長・嶺興嶽老師さまよりのお祝いの表彰状と輪袈裟をいただきました。誠にめでたうございます。

お家に長寿の方々が居られるのは家庭和楽のもとであり、一家繁栄の瑞兆とお祝い申しあげる次第です。ますますのご長寿を保たれるよう願ってやみません。おめでと

うございます。

◎百寿(満年齢、大正3年生まれ) 酒井よつ様(本年8月死去)、木村はつる様

◎米寿(数え年、昭和2年生まれ) 森下みどり様、中島つた枝様、岡畑まち様、西垣正代様

※お願い 松禪寺花園会員(檀家)さんすべての生年月日は把握していませんので、今年米寿を迎えられる会員さんがおられましたら、ぜひ住職までお知らせください。お祝いの品を本山に申請いたします。

特別布教のご案内

11月13日

和田山町・圓明寺にて

妙心寺派山陰東教区の第一部から第四部まで部毎に行う特別布教が、11月11日から14日まで開教されます。松禪寺が属します第二部の開教は左記のとおりです。

【秋季特別布教】

日時 11月13日(木)

14時より開教予定

場所 圓明寺

(和田山町宮2502)

課題 『おかげさま』(父母の恩ー今ここ私のいのち)

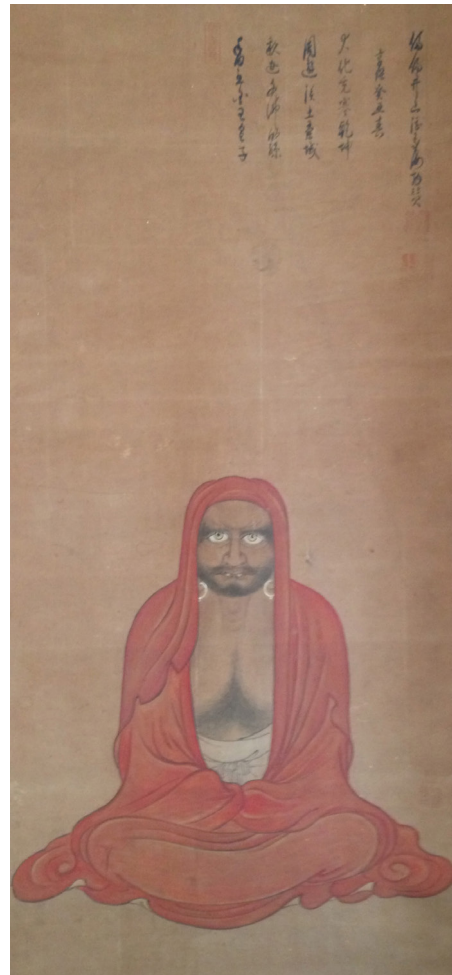
布教師 新山玄宗師
(愛媛県大洲市・福成寺ご住職)



おしらせ

達磨忌&開山忌のご案内

11月3日(文化の日) 午前11時より執行



来る11月3日(日)、松禪寺

では達磨忌と開山忌を営みます。

達磨大師は、禅宗の開祖です。

南インドの小国の王子として生まれ、後に出家して菩提達磨と名を改めます。禅を伝えるために中国に渡り、洛陽の少林寺で面壁して坐禅すること9年に及んだと言われています。

また、松禪寺は来翁祖諱(らいおうそじゆん)和尚大禪師を開基として、禪師の師である一笑禪慶(いつしやうぜんけい)和尚大禪師を勧請開山としています。10月

20日を忌日としております。

この達磨忌と開山忌を次のとおり執り行いますので、ぜひお参りください。

松禪寺護持会

会費(後期分) 納入をお願いします

9月は、松禪寺護持会の通常会費(後期分)をお願いしています。

松禪寺は檀信徒の皆様方の、護持と発展を願う護持会費で運営されています。各評議員さんより納入の依頼があると思いますので、何



とき 11月3日

(月/文化の日)

午前11時より法要

正午斎座(けんちん汁)

場所 松禪寺本堂

※恐れ入りますが、炊事当番さんは午前8時30分にご来山ください。

永代供養墓「大慈大悲塔」

契約者募集中

宗教・宗派問いません

合祀ではなく一霊一家個別納骨できます

骨壺で保管するのではなく埋葬いたします

先祖代々など複数霊位のお祀りも可能

ご相談・ご予約
承ります

臨済宗妙心寺派

松禪寺

〒668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾469

電話 0796(55)0034

FAX 0796(55)0066

E-mail kenpou@syozen.com



月末に配布しました資料をご覧ください。

